

只見町のブナ林と子どもたちのアートが融合 只見こども芸術計画「ブナの森の葉っぱ日記」が開催



只見町ブナセンターは、福島県立博物館の協力のもと、アーティストの岩田とも子さんを講師に、深沢地区余名沢のブナ林にて只見町の子どもたちを対象としたアートワークショップを開催しました。

紅葉がピークを迎えた10月29日(日)の第1回目のワークショップでは、町内の20名が参加し、ブナ林の植物の葉っぱでゲームをしながら観察しました。また、葉っぱの模様・色・形がもしかしたら森にいない生き物が残した日記だとしたら？と想像し、その生き物の気持ちで日記を書きました。



講師の岩田とも子さん(中央)



葉っぱゲームの様子



森の生き物の日記を想像

11月12日(日)の第2回目のワークショップでは14名が参加し、第1回目で参加者が創作した日記が作品として展示されているブナ林を訪れ、見学しました。また、ブナの落葉の上に寝転び、葉っぱの気持ちになる体験を行い、参加者は感じたことなどをブナ林の植物の葉っぱに自分の日記として書きました。さらに日記帳に模したブナ板にブナ林の落葉層を描き、ブナ林をアート空間として完成させました。

岩田さんは子どもたちに「自分たちの書いた日記をもしかしたら森の生き物たちが読んでくれるかもしれない」と優しく語りかけていました。参加者からは、「普段できない素敵な体験ができてよかった」などの声が聞かれました。展示は根雪まで継続されます(問合せ 只見町ブナセンター TEL 0241-72-8355)



ブナ林に展示された作品



ブナ林に寝転がる



葉っぱに自分の日記を書く

余名沢のブナ林までの案内マップはこちら⇒



ワークショップの詳しい様子は
只見町ブナセンターのブログをご覧ください⇒

